



2012 年2月 20 日発行

「赤レンガをいかす会」

赤レンガ通信

この通信は皆様のカンパ金で作成・送付しています。感謝！
NO.5

〒272-0823 千葉県市川市東菅野 5-8-21-201(いちぶんネット内)

TEL047-339-7809 FAX047-339-7810 Eメール akarenga_2010@yahoo.co.jp

赤レンガの文化財調査が実施されます！

「赤レンガをいかす会」 代表・吉原廣

読者の皆様に、喜びを持って報告します。

赤レンガを管理する千葉県健康福祉政策課が赤レンガの文化財調査に入るとのことです。

今年の2月6日、課の担当者と私がお会いすることになり、「今年3月末までに赤レンガの文化財的価値を探る建築調査に入る。このまま放置しておく訳にもいかないから、調査だけでもしておきたい」旨を伝えられました。調査団の詳細はまだ不明(2月20日現在時)ですが、確実に実施するとのことでした。ようやく一つの進展が生まれたといえるでしょう。

赤レンガに関しては、2010 年11月と12月に、日本大学建築科の藤谷陽悦教授と学生らによる2日間の建築予備調査が実施され、今年度も継続調査を申請中でしたが、今回の調査には他の有識者が当たられるようです。「客観性を保ちたい」とのことでした。

2002年の千葉県血清研究所閉鎖以来、見向きもされなかった赤レンガ建造物がやっと注目されて、陽の目を見たといえるでしょう。とはいえ、新たに結成される調査団がどんな結果を報告してくれるか、また心配の種でもあります。

調査が行われて後「保存の価値なし」と判定されて、土地の再生利用の邪魔者扱いされて取り壊されていった貴重な建物は全国各所に数限りなくあります。

我が愛する国府台の赤レンガは明治20～30年代建造(推定)のフランス式積み立ての貴重な建物ではありますが、外見の派手さもなく、1階は薬品貯蔵室に改造するために壁一面にモルタルが吹き付けられています。

しかし、明治初年以來の日本陸軍の発展と破滅の歴史を、それとともに重荷を負ってきた軍郷・軍都市市川の歴史を静かに見つめてきた貴重な文化的証人でもあります。そうした国府台の赤レンガの歴史的特徴を、調査団の方が深く認識されることを願うばかりです。

日本建築学会が提起した希少建築物保存に関する5つのガイドラインというものがあるそうです。歴史的、文化的、技術的、景観的、社会的といった視点から基準を決めていくようですが、私たちも今こうしたガイドラインに沿って赤レンガをチェックする作業をしています。それをまとめて、保存の必要性を訴えるため、県や市へのアピールを行っていこうと思います。

2010年2月に結成された「赤レンガをいかす会」の活動も、早2年になろうとしています。

この間、県健康福祉政策課のご協力の下、何回にもわたる見学会やシンポジウムを実施して、また多くのマスコミやミニコミ誌に掲載されたおかげで市民の間に関心が大きく広がり、「市川市内にこんな宝物が残っていたのか!」という驚きと、「ぜひとも保存に協力したい!」という大きな期待の声が寄せられました。その後、会員も優に300名を越えました。

今回の調査への着手は、そうした市民の支援の下で活動してきた一つの成果ではありますが、今後の進展を注意深く見守りたいと思います。



「赤レンガをいかす会」 2012年の活動

「赤レンガをいかす会」代表 吉原 廣

一面でご報告したとおり、赤レンガの文化財調査が始まろうとしています。

「文化財建造物の保存」でよく見られる手法で、明治村や南房総の風土記の丘といった施設に移築保存を行う方法がありますが、それではただ観光対象だけになってしまいます。私たちはやはり、「その場に残して再生・活用する」することが大事だと考えます。

迫り来る首都圏直下型大地震の危機に対応するために、都市の防災対策の見直しが進められています。また、福祉政策の充実も当然のごとく求められています。となれば、国府台地域こそ最もふさわしい防災と福祉の拠点となりうるのではないのでしょうか。隣県の江戸川区なども緊急避難先として国府台地域に着目しているそうですが、千葉県や市川市でも国府台地域を一大防災拠点としてプラン化していく必要があるのではないのでしょうか。

緊急時には巨大避難所となりうる施設でありながら、普段はさまざまな福祉施設の集約体であり続ける施設として、旧千葉県血清研究所跡地とその周辺地域

は重要な役割を担えるに違いありません。そして私たちはそこに市民が日常的に集い創造し交流する豊かな国際的市民文化の花を咲かせる必要があると考えます。これからのさまざまな施策の根本に文化的視点は必要不可欠だからです。その市民交流の賑わいの真っ只中に、軍郷・軍都市川の歴史を見つめてきた赤レンガがどんと鎮座して、市民の活躍を見守り続けるという光景を私たちは夢見ているというわけです。

というわけで、今年は、赤レンガの存在をより多くの方に知ってもらい、また愛してもらうために、周辺地域の住民や子どもや学生たちに呼びかけて、みんなで調査活動に乗り出そうと考えています。

国府台一帯は小学校から大学まで多くの教育施設が集合している学術地域です。子どもや学生を巻き込んで、また地元住民と一緒に、国府台地域の歴史と現状を見つめ直し、その未来の姿を展望していけたらと願っています。皆さん、ぜひご参加ください。

2012年の活動予定

1 地域の子ども・学生・住民による赤レンガ調査活動

(1) 赤レンガを知る学習会と調査研究

- ①先進保存事例見学会「横須賀市のウェルニー公園と猿島見学」 3月17日(土)
- ②学習会「金沢の事例に学ぶ」 講師:本康宏史(石川県歴史博物館) 4月30日
- ③赤レンガ見学会&写生・撮影・句会 7月予定
- ④赤レンガ見学会&地域の子ども・学生・住民による建物調査 11月予定
- ⑤地域の歴史と赤レンガ文献研究 4月~11月

(2) 成果の発信(報告書づくりと地域ネットワークづくり)

2 赤レンガ見学会と市民フォーラム「赤レンガの文化財的価値を探る」

日時:2013年2月 会場:和洋女子大学

講師:原剛(日本軍事史学会副会長)、藤谷陽悦(日本大学生産工学部教授)、高木彬夫(建築家)、高野邦夫(日本軍事史研究家)等予定

横須賀市・猿島 見学会

ご参加ください！

春の一日、東京湾に浮かぶ人工の要塞島、幕末から昭和にかけて国土防衛のための砲台が建設された猿島を見学します。猿島は、150 年前の黒船来航時に提督の名をとって「ペリー島」と名付けられたほど、東京湾口の代表的なランドマークです。

島内は、縄文時代から弥生～古墳時代前期の貝塚を伴う猿島洞穴遺跡があり、また島全体は幕末の猿島台場跡、近代の猿島砲台跡で、同時に第2次世界大戦中に高角砲陣地が築かれた戦跡遺跡としての性格もあわせもつ、極めて貴重な戦争遺跡となっています。

そうした砲台や要塞跡が保存され、公園として整備されています。東京湾要塞の重要な場所として位置づけることのできる猿島を見学し、東京湾要塞の歴史を探訪しましょう。

ぜひご参加ください！

日 時:2012年3月17日(土) 雨天中止

案内人 : 水野僚子さん (横須賀市総務部総務課 市史編さん担当)

参加定員: 20名程度 (歩き回れる服装で)

参加希望の方は事前にお電話ください(047-339-7809 いちぶんネット内)

参加費なし(会の活動へのカンパをお願いします)。すべて実費負担。

当日スケジュール

11:45 JR 横須賀駅集合 (駅舎前)

(総武横須賀線快速 [直通]9:42市川発→11:21横須賀着

[乗換あり]9:46市川発→11:42横須賀着

[乗換あり]9:55市川発→11:42横須賀着

[直通]10:06市川発→11:42横須賀着)

→ヴェルニー記念館→各自お昼(コルセール・ダイエー・どぶ板などで)

→14:15 三笠船着場集合・14:30 発

(遅れた方はここへ集合してください。約2時間の島内見学)

→17:00 猿島発 (往復 1200 円・15名以上団体1080円)

→現地解散(懇談会自由参加)



猿島全景



フランス積煉瓦の地下構造物



電気燈機関室 (煉瓦造平屋建)

赤レンガ見学会&ディスカッション

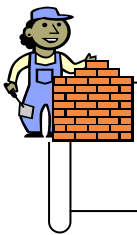
見学会当日はさわやかな秋晴れに恵まれて、約 300 名以上が参加しました。赤レンガ建物を外観からまた、建物内部から解説しました。建物前広場では赤レンガの背景となる「軍都時代の解説」、「経過や今後の運動」のスピーチを展開しました。同じく広場では、赤レンガのポストカードを 10 種選び抜かれた写真で作成して販売。また、5 枚の大型パネルを作成「いかす会あゆみ」「建物の実測図、見どころ」等々・・・で展示報告をしました。見学会の後会場を和洋女子大学に移し、市民ディスカッション「赤レンガを語ろう！」が行われました。会場では 60 名の参加を得て、充実した議論がなされました。市民のほか、歴史・建築・学校・博物館・議員さん・60 年ほど前に血清研究所に勤務されていた女性など多彩な方々の意見で話題が沸騰しました。多数のご意見ご感想をいただきました。ごく一部ですがご紹介いたします。



フランス積み



建物内部で見学中



おいに語ろう！赤レンガ
ご意見 ご感想 ご提案

赤レンガ建物に対するご感想

- ・ 2 階の天井や内部の木造構造が洋館の構造と日本の工法の組み合わせが興味深かった。
- ・ 想像していたより、小ぶりでしたが、保存状態の良い赤レンガ建物に驚きました。あんな建物が、100 年以上もひっそりと建っていたのだですね。感動ものです。
- ・ フランス積みのレンガを実際に見るのは初めて手面白かった。
- ・ 保存状態が悪い。今手を入れて残すべき。市川市にこの様な古い建物が残っている事に驚きました。
- ・ よくぞ震災にも空襲にもけなげに生き残ってきた。

市や県に要望するご意見

- ・ 教育関係へ働きかけることも大切です。（小中高大学とある文教地区を利用したら）
- ・ 市民・住民のパワーが運命を決めるー！！署名活動、見学会、集会等の活動をして県や国に働きかけてください。
- ・ 保存の為にアピールを県に多にしてほしい。
- ・ 土地を県から市川市が借り受けて、活用は NPO でも OK。参考例として北方遊水池。
- ・ 県や市にその価値を知ってもらうことが大事ではないか。

歴史的な感想

- ・ 近代史に残る遺物として、立派な文化財でしょう。歴史的遺産を後世に伝えようとする時、考古～古代あたりのものも大切ですが、より現代に近いところのものを間近に見ることが大切と考えます。ぜひ、姫路や金沢、富岡と同様に残してほしいです。
- ・ 倉庫も付近の環境も素晴らしい。あの一帯の環境はつぶしたくないです。
- ・ 市川に建物があり、残す意味を考えると、教導団の時代からどう変遷してきたか歴史的学術研究と建物調査と両方が必要。

保存・活用方法のご意見

- ・ もっと多くの人に赤レンガの存在を知らせるべきだ。
- ・ 近隣の赤レンガ建物と連携をとり、例えばバスで巡るような見学コースを作りこだけ保存、市川だけの宝物の枠からはみ出して広く保存の動きを強めたほうがいい。
- ・ 移築保存に反対。その場で保存してこそ価値がある。人の目に触れ、歴史を語り、平和の語り部として活用されるべきだ。
- ・ ぜひ図録を出版、販売をして下さい。
- ・ ルーツは、軍施設であった過去の負の遺産、赤レンガの再生（原爆ドームのような位置づけでの）とそれを拠点とした施設周辺への交通アクセスの重要性を感じました。
- ・ 保存の意義も、建物の価値としてばかりではなく、記憶の保存の意味も重要で、再生有効利用という手法がそれを裏付ける役割を担う一つの力ギなのだと気づかされます。
- ・ 今後どのようにこの歴史を伝えていくのか考えさせられました。

登録文化財として 価値が極めて高い！

十菱駿武 戦争遺跡保存全国ネットワーク代表
山梨学院大学教授

2011年8月の6日、7日に横浜の日吉の地下壕のある慶応大学で全国シンポジウムを開催しました。その大会で旧血清研究所跡地赤レンガ建物の保存を求めているアピールが採択されました。採択を受けまして、文化庁・千葉県及び市川市にこの赤レンガ建物を、保存と調査のための要望書を提出しました。

実は今日初めて、現地を見せて頂いたのですが、こういう赤レンガの建物というものは明治期から大正期にかけての構造物で、余り地震に対して強くない、関東大震災を契機に赤レンガ建物が危険だということでコンクリートに変わっていくわけです。明治期の建物として市川、千葉県として貴重な建物です。ということから保存を十分に指定、あるいは登録文化財として価値が極めて高い、ということは問題ないだろうと思います。

名称のことですが、通称は赤レンガということで、第二倉庫のところに貼り札が残っていて、その貼り札の中には兵器係という名称も貼ってありました。



明治34年の頃の図を重要な資料とすれば、登録や指定する場合には創建当時の目的が16連隊武器庫というのがこの赤レンガの正式名称になるのではないかと思います。

構造と年代のことですけれども、赤レンガの建物赤レンガの建物は明治期の特徴で武器とか弾薬とかあるいは燃えては困るようなものを赤レンガで作ったということです。一般の兵営で赤レンガ建物は全く例がなく、ほとんどが木造の建物です。赤レンガは兵器庫、武器庫であったということが大きな点であります。この建物については私の感じから言うと明治27、28年の陸軍の拡張期か、それ以降の明治27年から明治34年までの間に作られたのではないかと思います。つぎに利用法ですが、やはり現地で登録有形文化財として保存をしてもらって、それで土地そのものは市川市がその管理者あるいは管理団体として保存し、活用するというのが本来の形でしょう。市川市には、市川市歴史博物館、市川市考古博物館があります。いい機能の図書館など整っています。やはり平和資料館がない。軍都であった市川のシンボルとしての建物のままで保存されていないということから言えば、唯一の軍事建物であるこの建物の特性、この武器庫であるという特性から言うと平和資料館としてふさわしい。市立の平和資料館として実際の管理は民間が管理するということもありうると思います。市が責任を持ってそういう平和と防災という側面をも含めて資料館として、市民に平和を軍都の記憶を引き継ぎそしてその平和を、将来にわたって発信してゆく、そういう施設として活用するのが、あるべき姿であらうと思います。（ディスカッションからの一部抜粋）



甲府連隊という陸軍の甲府49連隊がありまして今は山梨大学に変わっております。この中に赤レンガの建物があります。連隊食料庫の倉庫として使われていましたが、ちょうど面積的に国府台赤レンガの建物の二倍程の大きさです。この建物の保存をめぐる、2000年代に入って、管理している大学が取り壊しをするということで、私たちは所有管理者である山梨大学に折衝をしました。結局取り壊さないで活用するというになり、約1億円の修復のための予算を文部省の方にとってもらって修復をしました。そして現在は登録の登録有形文化財として、赤レンガ博物館という形で平和のための見学会や、芸術や地域の集まりをしたり、あるいは山梨大学の歴史を展示する資料館として活用しています。こういう形でぜひ保存し、平和のために活用してほしいと思います。（十菱駿武）

「赤レンガ武器庫を調べる」

建築家 高木 彬夫

明治18年、19年に陸軍教導団が国府台に設立されことは記録に残っている。総合大学を設立するための用地として文部省が収用した敷地は、交通が不便(当時は総武線、京成線、市川橋も無かった)な場所で学校には不適とされたものを陸軍教導団の用地として利用することになった。教導団の規模は毎年6科1,700名の生徒、職員50名の編成で陸軍下士教育を16～20ヶ月の期間にわたり行った。教導団の施設についての資料は不明だが、教導団が明治32年に廃止され33年から施設をそのまま利用し軍隊を駐屯させたことから、明治34年、35年に発行された絵図(野戦砲兵第一連隊及第十六連隊之図、野戦砲兵第十七連隊之図)に描かれている施設と概ね同じだったと推察できる。

赤レンガ武器庫を将来に遺すべきだと主張する理由は、明治時代の黎明期に日本が軍隊の近代化を図るために作った唯一の教導団施設であり、教導団が廃止された後に、陸軍が引き継ぎ日露戦争から太平洋戦争終結までの重要な軍事施設としてあり続けた軍跡遺産として、海外から建築技術を移入し建設した漆喰目地フランス積(フレミッシュ・ボンド)の初期の煉瓦建築として建築史上貴重な例であること、関東大震災ほかの地震をぐり抜け殆ど破損が無く保存されてきたこと、太平洋戦争の後、学校施設などが建設されすべての陸軍の施設が失われた中で千葉県立血清研究所の敷地内で取壊しを免れほぼ原形のまま残っていること、江戸川斜面林を背景に簡素な姿がレンガ色鮮やかに在り景観のポイントとして極めて重要であること、地域の人達が幼いころから馴染んできた赤レンガを大切に遺したいと云う熱い思いなどがある。

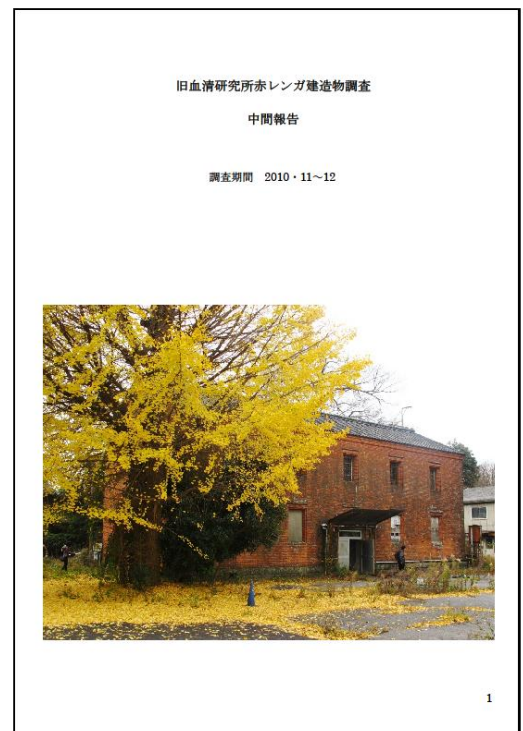
赤レンガ武器庫の全容はまだ明らかではないが、今後、進めてゆく調査・研究 1) 現物の詳細な調査から手掛かりを探す。2) 文献資料による調査。3) 類似の建築と工法、材料などを比較。などによって解明できると考えている。建設時期が確定しなくとも赤レンガ武器庫には将来に遺すべき十分な価値がある。私たちはこれ等の調査を組み合わせることで進めてきた。

■ 建物の実測調査

藤谷日大教授、高木 JIA 会員、安達 JIA 会員、日大建築科学生、和洋女子大学生で調査チームを編成、2010-11、12月に実測調査を行った。調査の結果は右の様な報告書にまとめ関係各所に配布した。しかしこれはあくまでも中間報告で今後継続した調査が望まれる。レンガは漆喰目地で積まれたフランス積み(フレミッシュ・ボンド)、西側の窓開口部で発見したレンガの刻印などは年代推定の大きな手掛かりになる。また控えめなデザインが施されていることから入口は西面に在ったことが覗える。(後日、1944年占領軍撮影航空写真により実証された)

■ 資料、文献による検証

「明治37年に之を建てる」と書かれた棟札を見たとき云う元血清研究所職員の話(血清研50年史)と現に保管されている「明治36年3月6日着工、同3月31日竣成」と書かれた木札とを混同して、赤レンガは明治37年築の建物と通説になっていたが、陸軍砲兵第十六連隊の絵図に書かれた発



行所と発行日付は明治 34 年・・・となっており少なくとも 34 年以前に建築されたことが分かった。

血清研の時代には第二の赤レンガ棟が残っていた。旧職員の写真によればこの建物もフランス積みの赤レンガ造である事が分かるが絵図にはない事から建築年代は明治 34 年以降と考えられる。建物としてはこちらの方が大きく血清研時代には所長室、応接室、休憩室、研究室などがあった。新しい建築を建てるために壊したと 50 年史に記載されている。信頼できる文献として「陸軍省大日記」があるが明治 10 年～32 年までの間に教導団に関する施設についての記述が無い。僅かに 30 年頃に建物を改造した事が書かれているので施設について記録をしなかった訳ではないと考えられる。以上述べたように、小さな赤レンガ武器庫には多くの謎の部分がある。

明治になって文明開化は建築の世界でも開花する。レンガ建築も各地で建てられるようになった。明治 20 年後半から大正 12 年関東大震災までが煉瓦造建築(イギリス積)の最盛期である。今も残っている建築は数多いが、フランス積建築は 6 例しか残っていない。



絵図明治 34 年



1944 年航空写真

明治初期、中期の主要な煉瓦建築物を抜粋 ★は現存、☆は喪失

1872 明治 5	★富岡製糸場 木骨・赤レンガ(フランス積み) 国指定重要文化財
1873 明治 6	国民皆兵制度の樹立
1877 明治 10	☆銀座煉瓦街竣工 設計ウォートルス(英)フランス積 関東大震災で壊滅
1879 明治 12	小菅集治監のレンガ工場 盛煉社(銀座街レンガ製造)施設を政府買い上げ
1881 明治 14	横浜外国人居留地の下水道改良起工 小菅集治監レンガ
1882 明治 15	陸軍省臨時建築署(のち東京湾陸軍臨時建築署)設置、帝都防衛のため猿島要塞や富津海砲建設に。旧士族の失業救済のため愛知県に東洋組創設、刈谷にレンガ工場を設置。全製品は陸軍省に納入。
1883 明治 16	☆鹿鳴館 設計コンドル 矩体はレンガ造だった ★横浜居留地 48 番館 モリソン商会 フランス積石灰目地 神奈川県重文
1884 明治 17	★彰栄館(同志社大)設計 DG グリーン 京都最古のレンガ建築 他に 4 棟あり重要文化財 ★猿島砲台(東京湾要塞)東洋組レンガ使用 フランス積
1885 明治 18?	★陸軍教導団 市川国府台に設立される 赤レンガ武器庫 フランス積
1888 明治 21	★北海道庁旧本庁舎 設計平井晴二郎 フランス積
1889 明治 22	帝国国会開催 憲法制定
1890 明治 23	濃尾大地震 レンガ目地は漆喰から強度あるモルタルへ
1891 明治 24	★JR 九州本社 フランス積
1894 明治 27	★三菱一号館 設計コンドル 三菱煉瓦街の 1 棟が復元され美術館 日清戦争
1895 明治 28	★法務省旧本館(旧司法省)設計エンデ+ベックマン
1899 明治 32	教導団廃止 施設は陸軍砲兵連隊などに引き継ぐ
1900 明治 33	★舞鶴赤レンガ倉庫群
1904 明治 37	日露戦争
1908 明治 41	★旧鉄道連隊材料廠 千葉経済学園 千葉県指定文化財

参考文献：陸軍省大日記、れんがと建築 INAXBooklet、明治国家の成立 山川出版社、軍備拡張の近代史 吉川弘文館